

# 令和2年度 伊勢市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和3年5月

伊勢市（三重県）

## □. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:平成28年4月～令和3年3月(5年)

### 1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成28年3月15日に認定を受けた伊勢市中心市街地活性化基本計画のビジョンである「暮らしやすく、また訪れたいくなる 伊勢のまち」の実現に向け、都市機能の集積を図り、魅力ある空間をつなぐことで、市民や来訪者にとって便利で快適な中心市街地を目指し、官民が連携して38事業の取組を行ってきた。

特に伊勢市駅周辺では、民間事業者による伊勢市駅前地区の再開発事業等や、伊勢市駅南地区事業などの交流拠点のハード事業だけでなく、商店街空き店舗対策事業や商店街魅力アップ事業などのソフト事業による支援により、周辺商店街に飲食店などが17店舗新規出店した。新たな店舗ができ、人のにぎわいが創出されたことで、認可時から大きく雰囲気が変わり、市民アンケートでも半数以上の市民が活性化してきていると感じている。

また、タウンマネージャーのマネジメントにより商店街組合の活動が活発になり、活性化の兆しが徐々に広がりつつあるが、後継者問題、建物の老朽化、社会的な人口減少などの要因により、商業環境については市民ニーズに対応できておらず、中心市街地全体が活性化しているとは言い難い状況である。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や休業要請により、中心市街地でも、商業、飲食業、観光関連産業等、深刻な影響を受けており、新たな価値・スタイルに対応した地域経済と市民生活の再興が、喫緊の課題となっている。

### 【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

#### (1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)
人口	7,934人	7,857人	7,738人	7,616人	7,500人	7,323人
人口増減数	△165人	△77人	△119人	△122人	△116人	△177人
自然増減数	△96人	△112人	△97人	△115人	△104人	△93人
社会増減数	△69人	35人	△22人	△7人	△12人	△84人
転入者数	192人	156人	196人	216人	234人	200人

※人口増減数・自然増減数・社会増減数・転入者数については、前年度の基準日から当該年度内の基準日までの1年間の変動数を記載している。

#### (2) 地価

(単位：円/㎡)

	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)
中心市街地内 商業地域 (一之木2丁目 2280番)	59,000	57,000	55,000	53,000	51,500	50,500
中心市街地内 商業地域 (本町426番 2)	132,000	133,000	134,000	135,000	137,000	142,000

中心市街地隣接 第一種住居地域 (常磐 1 丁目 1160 番)	57,000	54,600	52,400	51,000	50,100	49,400
中心市街地隣接 近隣商業地域 (岩淵 1 丁目 712 番)	77,800	76,000	74,300	72,500	71,200	70,500

## 2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した       ②予定通り進捗・完了しなかった

### 【活性化状況】

- ①活性化した  
 ②若干活性化した  
 ③計画策定時と変化なし  
 ④計画策定時より悪化

## 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第1期計画では、基本方針に基づき定めた、「中心市街地の魅力増進によるにぎわいの創出とまちなかの回遊性の向上」「商店街の魅力創出による商業の活性化」「都市機能の強化によるまちなか居住の促進」の3つの目標達成に向け、計38事業(ハード事業8事業、ソフト事業30事業)を推進し、9事業が完了、29事業が継続実施中であり、概ね順調に進捗・完了したといえる。

目標指標については、3目標とも目標値を達成することは出来ず、歩行者通行量については、新型コロナウイルス禍に伴う外出自粛や休業要請、観光客の激減(神宮参拝者数 令和2年2月:710,820人→令和3年2月:265,119人)の影響もあり目標値の66%にしか届かなかった。

ただ、基準年である平成27年の歩行者数の半分以下となった商店街もあるなか、伊勢市駅周辺における優良建築物等整備事業(平成28年11月開業)や伊勢市駅南地区整備事業(平成30年6月開業)などの民間事業者によるハード整備により、伊勢市駅前商店街には観光客が増加したことで、基準年より歩行者通行量は増加しており、観光・交流活動拠点としての中心市街地のにぎわい創出に寄与している。

空き店舗率についても、基準年より悪化(平成26年度:33.9%→令和2年度:35.1%)しているが、閉店舗数としては122店舗から115店舗と減少しており、一部商店街では大幅に空き店舗率が改善されたところもあることから、一定の効果は現れつつあると考えられる。

## 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

### 【活性化状況】

- ①活性化した  
 ②若干活性化した  
 ③計画策定時と変化なし  
 ④計画策定時より悪化

第1期の初年度から、中心市街地活性化基本計画の推進に向け、協議会は県外の若手人材をタウンマネージャーとして採用し、事務局と共同で実施主体のマネジメントを推進した。

協議会として知識や経験が不足する部分は、中心市街地活性化に関する支援策である「中心市街地商業活性化診断・サポート事業」のセミナー型、プロジェクト型、また「中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業」を活用し、事務局、実施主体と共にノウハウやネットワークを蓄積しながら、他事業(再開発事業、イベント事業等)との連携にも取り組んだ。

その結果、商店街を中心にビジョンの策定及び事業の一部実施、また伊勢まちづくり株式会社の新規事業の推進が行われ、民間企業による中心市街地活性化の機運も高めることができた。その中でも、伊勢市駅前商店街の活性化事業、及び優良建築物等整備事業については行政と連携することで空き店舗数の低下に大きく繋がったと考える。

一方、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、商店街等民間団体が策定したビジョンのうち、一部の事業が事業実施へ繋がらなかったことが、目標達成に至らなかった要因の一つと考えられる。

今後は、実施主体(民間組織、商店街組合等)及び伊勢まちづくり株式会社が、ネットワークの形成、事業計画の作成、実施、継続へと繋げることができるよう留意し、中心市街地活性化に関する支援策を考慮しながら、中心市街地の活性化を推進すべきと考える。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

伊勢市の中心市街地に関する市民アンケートを実施し、基本計画に基づく取り組みについて、市民意識の変化や市民ニーズについて分析した。

計画の開始前と比較して、「かなり活性化した」が9%、「少し活性化した」が46%となっており、半数以上の人为中心市街地の活性化に対して肯定的な評価をしている。

年代別集計でみると、若い世代ほど、平成27年より中心市街地が活性化したと感じる割合が高くなっているが、かつてのにぎわいを体感している世代は、まだ物足りなく感じているように推測される。

#### □調査の実施概要

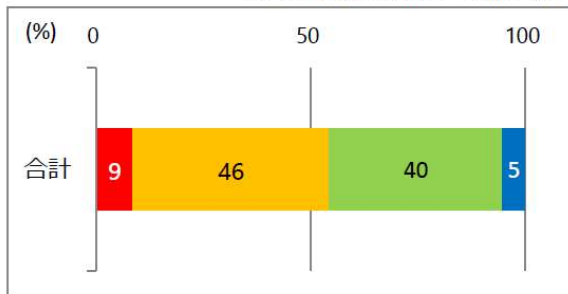
調査対象	伊勢市内在住の16歳以上の市民3,500人(無作為抽出)
調査方法	郵送またはインターネット回答
回答票数	1,815人(回答率:51.9%)
実施期間	令和2年11月5日～令和2年11月30日

平成 27 年度に伊勢市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 28 年度から中心市街地の活性化に取り組んでいます。計画を策定した平成 27 年度以降で、中心市街地は活性化したと感じていますか。（1 つに○）

- 1. かなり活性化した
- 2. 少し活性化した
- 3. 変化していない
- 4. 悪化した
- 5. わからない

### ○単純集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



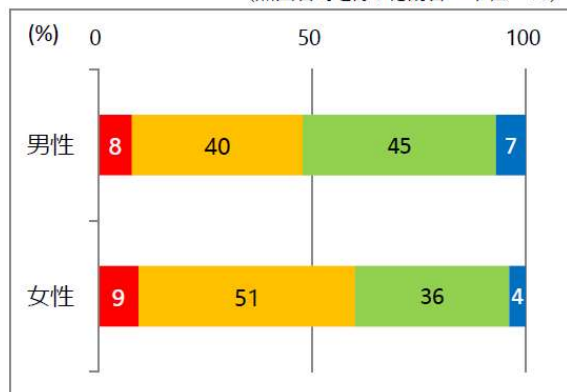
「2. 少し活性化した」の割合が高く、「1. かなり活性化した」と合わせると50%を超えていますが、「3. 変化していない」の割合は40%となっています。

(単位：人)

回答	1	2	3	4	無回答等	合計
回答者数	97	506	448	58	706	1,815

### ○男女別集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



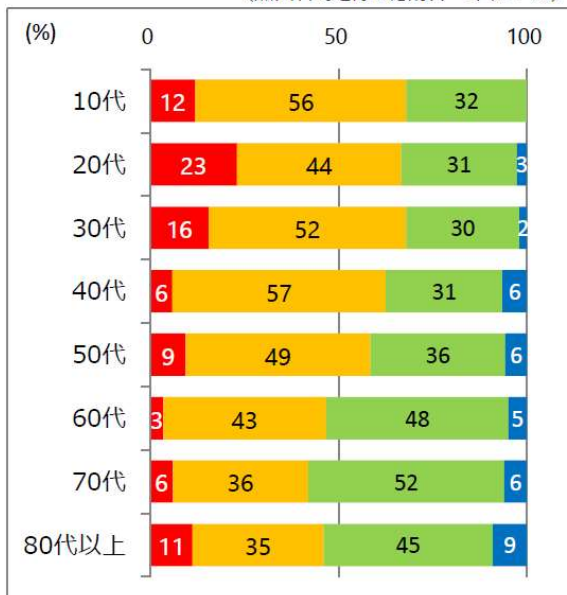
女性の方が「2. 少し活性化した」の割合が高くなっています。

(単位：人)

回答	1	2	3	4	無回答等	合計
男性	40	201	227	35	272	775
女性	56	300	213	23	424	1,016
無回答	1	5	8	0	10	24
合計	97	506	448	58	706	1,815

### ○年代別集計

(無回答等を除いた割合 単位：%)



若い世代ほど「1. かなり活性化した」「2. 少し活性化した」の割合が高くなる傾向があります。

(単位：人)

回答	1	2	3	4	無回答等	合計
10代	3	14	8	0	29	54
20代	18	34	24	2	63	141
30代	16	54	31	2	66	169
40代	10	97	53	11	85	256
50代	20	104	76	12	87	299
60代	8	99	111	11	128	357
70代	12	72	104	12	148	348
80代以上	10	31	40	8	97	186
無回答	0	1	1	0	3	5
合計	97	506	448	58	706	1,815

## 6. 今後の取組

第1期計画では、都市機能の集積を図り、魅力ある空間をつなぐことで、地域住民や来訪者が快適で、安心して回遊できるまちを目指し取組を進めた。その結果、一部地域で取組の効果が表れたが、中心市街地全体で見ると、居住人口の減少、老朽化した空家や空き店舗、未利用地の増加など、いくつもの課題が相関し、解消されていないのが現状である。

第2期計画では前計画からの継続した取組だけでなく、新たな取組にも着手していく必要がある。

また、伊勢のまちづくりは、伊勢神宮の式年遷宮にあわせて進められており、20年に一度執り行われるご遷宮のたびに、交通網や施設の整備が行われ、まちが生まれ変わり、その度に新たなにぎわいを生み出してきた。令和7年からは次期式年遷宮行事が始まる予定であり、さらに多くの観光客が訪れると考えられる。

第2期計画では、鳥居前町としてふさわしく、地域住民、観光客が駅周辺や歴史的な地域資源、商店街を楽しく回遊・観光できるまちづくりを官民一体となって進めていく。

さらに、AIカメラにより市内主要観光地の混雑状況を配信し、感染のリスクにつながる混雑を避けて、安全安心かつ快適に観光してもらう事業の実施など、with/after コロナ社会に対応した「新しい生活様式」を取り入れた対策にも取り組んでいく。

□. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
中心市街地の魅力増進によるにぎわいの創出とまちなかの回遊性の向上	商店街の歩行者通行量	2,957人 (H26年度)	3,105人 (R2年度)	3,075人	2,038人	R3.3	C
	【参考指標】伊勢市駅北側の歩行者通行量	1,316人 (H27年度)	—	—	717人	R3.3	—
商店街の魅力創出による商業の活性化	空き店舗率	33.9% (H26年度)	26.4% (R2年度)	27.9%	35.1%	R3.3	C
都市機能の強化によるまちなか居住の促進	人口の社会増減	△160人 (H22～26年度の合計)	±0人 (H28～R2年度の合計)	△32人	△169人 (H28～R2年度の合計)	R3.3	C

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

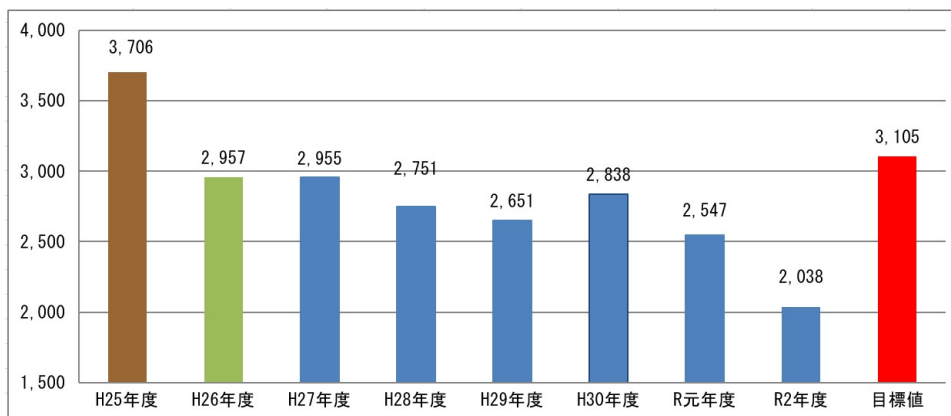
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「商店街の歩行者通行量」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P68～P73 参照

●調査結果と分析



年度	(人/日)
H26	2,957 (基準値)
H27	2,955
H28	2,751
H29	2,651
H30	2,838
R元	2,547
R2	2,038
R2	3,105 (目標値)

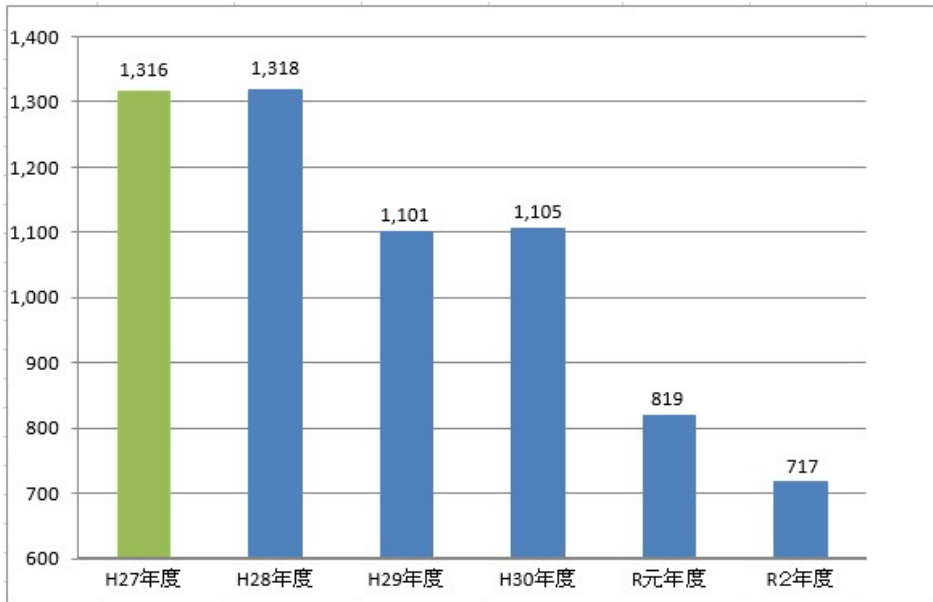
※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の5地点を通過する歩行者及び自転車を計測  
(令和2年度については、天候の影響により日曜日)

※調査月：令和3年3月

※調査主体：伊勢まちづくり株式会社及び伊勢市

※調査対象：中心市街地内の商店街に設けた5地点の歩行者及び自転車の通行量

【参考指標】伊勢市駅北側歩行者通行量※参考指標の考え方認定基本計画 P74 参照



年度	(人/日)
H27	1,316 (基準値)
H28	1,318
H29	1,101
H30	1,105
R元	819
R2	717

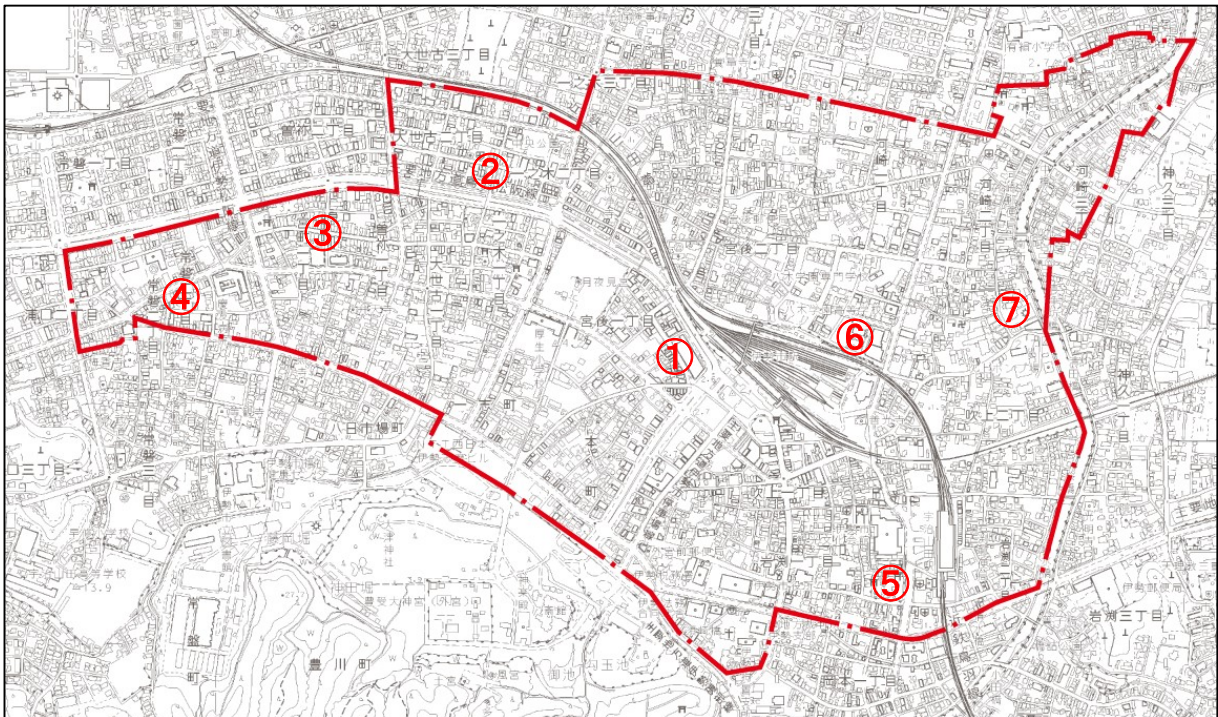
※調査方法：土曜日の9時～18時に伊勢市駅以北の市道2地点を通過する歩行者及び自転車を計測  
(令和2年度については、天候の影響により日曜日)

※調査月：令和3年3月

※調査主体：伊勢まちづくり株式会社及び伊勢市

※調査対象：伊勢市駅以北の市道2地点の歩行者及び自転車の通行量

図 歩行者通行量の調査地点



① 伊勢市駅前 旧三交百貨店裏	⑤ 明倫商店街 西
② 伊勢銀座新道商店街 中央	⑥ 【参考指標】市道北口線
③ 伊勢高柳商店街 中央	⑦ 【参考指標】市道外宮二見線
④ 浦之橋商店街 西	

**【目標指標】**

(単位:人)

	H27年度 (計画前年度)	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	R元年度 (4年目)	R2年度 (5年目)
①伊勢市駅前 旧三交百貨店裏	552	504	695	799	642	615
②伊勢銀座新道商店街 中央	662	631	603	564	513	424
③伊勢高柳商店街 中央	684	734	482	657	595	541
④浦之橋商店街 西	668	583	536	523	534	308
⑤明倫商店街 西	389	299	335	295	263	150
合計	2,955	2,751	2,651	2,838	2,547	2,038

**【参考指標】**

(単位:人)

	H27年度 (計画前年度)	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	R元年度 (4年目)	R2年度 (5年目)
⑥市道北口線	851	865	669	631	407	433
⑦市道外宮二見線	465	453	432	474	412	284
合計	1,316	1,318	1,101	1,105	819	717

今年度は、昨年度と比べ 509 人減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民が外出を控えているとみられ、特に高齢者の多い商店街や地域住民の生活圏にある調査地点は減少幅が大きくなっている。

また、天候の影響で調査日を土曜日から日曜日に変更したため、調査地点によってはお店が定休日のところも多く、その影響も数字に表れたと思われる。

さらに、観光客も少しずつ戻りつつはあるが、旅行も自粛となっていることから、以前のような賑わいは創出されていない。

**●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果**

**①. 伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業（民間事業者）**

事業実施期間	平成 28 年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により伊勢市駅前地区の土地の高度利用を目的に複合施設を整備し、商業施設、立体駐車場、共同住宅、福祉施設などの都市機能の集約を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （B 地区：平成 29 年度～令和 2 年度） （C 地区：令和 2 年度～令和 5 年度） [認定基本計画：平成 28 年度～令和 2 年度]
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +213 人 全体目標未達成



達成した（出来なかった）理由	複合施設の整備は進んでおり、それに合わせ周辺商店街にも新規出店が相次ぎ、歩行者通行量の増加につながっていると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	B地区について、令和元年6月に工事着工し令和3年1月に施設完成。 C地区について、再開発準備組合理事会を月1回実施し、事業の推進を図っている。令和2年度は施設の基本設計および現況の調査を行った。
事業の今後について	再開発で整備される施設と商店街が連携した取組を実施し、にぎわいの創出につなげていく。また、C地区についても、2期計画期間内の完成に向け推進する。

## ②. 優良建築物等整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	伊勢市駅の南側において、優良建築物等整備事業により宿泊施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） （平成28年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +167人 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	宿泊施設は予定通り完成し、高い宿泊率を維持していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、厳しい状況にあり、最終年度の歩行者通行量の増加には繋がらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成28年の開業から4年余り経過したが、新型コロナウイルス感染症の影響より宿泊率が大きく減少した。一方で、近隣商店街の新規店舗が増加したことから、周辺のにぎわいの創出に寄与している。
事業の今後について	平成28年11月に三交イン伊勢市駅前がオープンを迎え事業は完了した。平成29年度から、伊勢市駅前商店街振興組合の理事として、組合活動に参画。令和2年度も理事として参画中。引き続き歩行者数向上のため、商店街との連携、活動の支援を行う。

## ③. JT 用地活用事業（民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～平成29年度【済】
事業概要	大型の複合施設（特定施設生活介護、サービス付高齢者住宅、訪問介護、デイサービス、在宅療養支援診療所、ケアプランセンター）の整備及び運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	サービス付高齢者向け住宅整備事業（国土交通省）（平成28年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +18人 全体目標未達成

達成した（出来なかった）理由	施設は予定通り完成し、施設入居者の家族の訪問や従業員の通勤など、歩行者通行量の増加につながっていたが、高齢者が多い地域でもあり、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、外出自粛に応じた結果、通行量は大幅減となった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 29 年に開業して以降、施設内の地域交流スペースを活用し、入居者、近隣住民が一体となった活動が毎月 1 回程度開催され、各回 30 名程参加している。また、隣地保育所や地元商店街と連携したイベントも開催され、様々な世代が交流する拠点となっており、周辺のにぎわいの創出に寄与している。
事業の今後について	平成 29 年 5 月に開業し事業は完了した。同時に浦之橋商店街が主体となり地域住民と連携した高齢者向け地域サロン「いきいきサロンひかりの橋」を開始されたため、当施設内地域交流スペースを無料で貸出を行った。平成 31 年度から新型コロナウイルス感染症の影響より休止中。再び人が集まることができる状態を観察し、連携を継続し、歩行者数向上に貢献していく。

#### ④. 伊勢市駅南地区整備事業（民間事業者）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅南地区で、ホテルの建設や空き店舗を活用した商業施設等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	宿泊施設は予定通り完成し、高い宿泊率を維持していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、厳しい状況にあり、歩行者通行量の増加につなげることはできなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 30 年 6 月に開業したホテルは、高い宿泊率を維持し、近隣の空きビル内に新規店舗が増加するなど、周辺のにぎわいの創出に大きく寄与していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、厳しい状況にある。
事業の今後について	上記の影響より、令和 2 年 12 月に事業者の任意団体「吹上通り発展会」が設立され、当ホテルを含め当該地区で活性化が図られるよう各事業者と情報交換や事業目標の検討を進める。

#### ⑤. 伊勢市駅北口広場等整備事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅北口における広場等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +6 人 全体目標未達成

達成した（出来なかった）理由	全体事業費が膨大であり、また既設駐輪場の復元先である鉄道事業者との協議に時間を要したことから、事業が完了できず、目標達成に寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	今後は、広場整備に伴う既設駐輪場の復元計画について、県や鉄道会社と事業推進に向け、引続き協議を行っていく。
事業の今後について	全体事業費が莫大であることから、令和 2 年度までに完成させることは難しいため、計画見直しや、現状を活かした暫定的な対策も関係機関と協議していく。

**⑥. 伊勢市駅前商店街活性化事業（伊勢市駅前商店街振興組合）【平成 29 年度追加】**

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「空き地・空きビル活用調査事業」の結果を受け、商店街が目指すべき長期ビジョンを定めるためにトータルプランを作成し、それに位置づけている事業を実施していく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	商店街の道路デザインにおけるワークショップ、空き店舗誘致など積極的に行っており、さらには情報発信にも力を入れていることから、通りの魅力向上に大いに貢献しており、歩行者通行量の増加にもつながっていると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	昨年度作成した商店街ホームページへの PR 動画の掲載や、商店街マップの増版など、情報発信に重点を置き事業に取り組んでおり、また、商店街の清掃活動や道路デザインにおける勉強会やワークショップ、空き店舗誘致などソフト事業を中心に活動を行ったことで、歩行者の増加及び空き店舗の減少につながっている。そのほか、冬季には伊勢市と共同でイルミネーションによるライトアップ、また、朔日バル実行委員会による「朔日バル」など、民間団体のイベントの後援も積極的に行っており、民間団体と支援体制を組むことで、夜のにぎわいを創出している。
事業の今後について	「これわ伊勢モール」の改修工事に合わせ、通りの名前もリニューアルされる。コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、組合員との連携を強め、商店街活性化の事業を計画・実施していく。

**⑦. しんみち未来創造事業（伊勢銀座新道商店街振興組合）【平成 29 年度追加】**

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	空き地や空き店舗が目立つようになってきた新道商店街の状況を調査するとともに、商店街の将来像を定めたビジョンを検討し、ビジョンに基づいた事業を実施していく。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	作成したビジョンに基づき、様々なイベントや事業を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標とする歩行者通行量の増加にはなかなか繋がらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	「伊勢しんみち商店街未来ビジョン 2027」に基づき、学童保育の子ども達と連携した季節イベントや見学会を実施するほか、全国の高校生が主体となる産学官連携事業を会場として受け入れた。 「夜祭」や「はしご酒」などのイベントにより、夜の賑わいを創出し、また、商店街への創業を促すため、組合運営のフードラボ事業を実施することで、新規出店もあり空き店舗率は改善されたが、歩行者の増加は図れなかった。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響がでた以降は、商店街独自のプレミアム商品券事業、イルミネーションプロムナード事業等、屋外で実施できる事業にも取り組んでいる。
事業の今後について	ビジョンに沿った事業を着実に進め、民間によるイベントの支援、近隣の学校や商店街内の学童保育所等との連携事業を継続的に実施していく。 次年度、ビジョンにも位置付けた下水道工事が開始予定のため、行政と協力しながら円滑に事業を推進し、新規出店を促進させるとともに、合わせて道路整備を計画しており、人が集い、憩える空間を確保しにぎわいを創出していく。

**⑧. 繋ぐ高柳希望の風事業（伊勢高柳商店街振興組合）【平成 30 年度追加】**

事業実施期間	平成 30 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	高柳商店街の増加傾向にある空き店舗や火災現場跡地の利活用等を検討した新ビジョンを策定し、それに基づいた事業を実施していく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（平成 30 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業内容を再検討するなど、事業計画の変更を余儀なくされ、歩行者通行量の増加にむけた事業の実施までには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	火災現場跡地と複数ある空き店舗を利活用し、並行して多種多様なイベントを継続的に実施し、商店街に賑わいを生み出したものの増加には繋げることができなかった。 また、昨年作成したビジョンについては、新型コロナウイルス

	感染症の影響を考慮した事業内容の検討をすべく、本年度、引き続き中小機構の支援を受け、火災現場跡地利用について再考を始めている。
事業の今後について	火災現場跡地の利活用を中心としたビジョンに基づき、事業を進めていく。ビジョンに基づく商店街周辺のエリアマネジメントを行う組織(運営会社)の設立は、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ進めていき、高柳商店街との連携を図っていく。

### ●今後の対策

歩行者通行量の増加に向けた取組のうち、伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業について、事業完了が間に合わなかったため、整備予定の商業施設の開業や賃貸住宅への入居も遅れており、歩行者通行量の増加へつなげることができなかった。

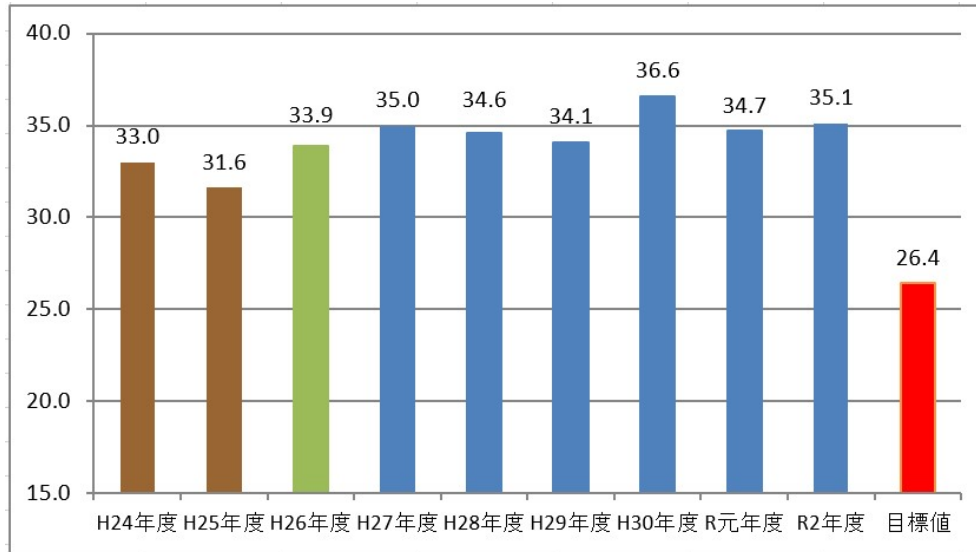
今後は、C地区でも第一種市街地再開発事業が予定されており、再開発事業に合わせ進めている道路整備では、周辺の観光資源等を活かした影絵を投影するなど、特徴的な空間創出と、通りの名前もリニューアルする予定で、さらに魅力が増すエリアとなることが期待でき、歩行者通行量の増加へ繋がると考えている。

また、第2期基本計画では、公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業などにより公共交通機関を利用する観光客を増加させ、外宮への参拝者を誘導するとともに、その観光客を他の事業と連携して中心市街地内の各商店街へ促し、エリア全体へ賑わいを広げる。

(2) 「空き店舗率」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P74~P76 参照

●調査結果と分析



年度	(%)
H26	33.9 (基準値)
H27	35.0
H28	34.6
H29	34.1
H30	36.6
R元	34.7
R2	35.1
R2	26.4 (目標値)

※調査方法：現地確認及び聞き取り  
 ※調査月：令和3年3月  
 ※調査主体：伊勢市  
 ※調査対象：中心市街地内の5つの商店街

平成27年度以降、空き店舗活用制度の実施や拠点施設の整備などにより、少しずつ低下していた空き店舗率は、平成30年度で一時悪化し、最終的には、伊勢市駅前商店街や外宮参道は、空き店舗が減少しているものの、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり、他の商店街ではなかなか改善がみられない。

状況が改善されない要因としては、後継者不足等による閉店、老朽化し安全を確保できない建物や店舗・住居一体型の建物が多いことから空き店舗であっても貸出や売却する家主が増えないことがある。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 商店街空き店舗対策事業(伊勢市、伊勢まちづくり株式会社)

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街において、空き店舗活用モデル事業やテナント確保支援事業など、空き店舗を活用して出店しようとする事業者に対して改装費や家賃の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成28年度～令和2年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +32店舗 最新値 +33店舗 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	計画期間中、7商店街、延べ33件の支援を行い、商店街の魅力向上と活性化に寄与した。このうち、伊勢市駅周辺に位置する3商店街では、それぞれ7件から9件の申請があり、市街地再開発事業などの施設整備による中心市街地の魅力向上及び市民

	等の周遊性向上による来街者増加への期待が事業としての目標達成に繋がったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	伊勢市駅周辺の商店街では新たに魅力ある店舗が出店する一方で、比較的遠くに位置する商店街では、申請件数が少なく、継続した支援が必要である。
事業の今後について	引き続き、商店街のニーズを把握し制度の拡充を図るとともに、利用促進に努める。

## ②. 商業魅力アップ支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備やにぎわいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 店舗数維持 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、中心市街地において 12 団体、延べ 17 件の支援を行い、商業環境の整備やにぎわいの創出に寄与した。 また、近年、伊勢市駅周辺に位置する商店街では、新規出店舗が増えてきたことにより組織の情報発信に関する需要が高まっていた。このような状況の中、伊勢市商業魅力アップ支援事業補助金を活用し、マップ、ホームページ及びプロモーションビデオを作成することで商店街の魅力が多方面に発信され、空き店舗率の改善に繋がったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	コロナ禍においても、出控えや企業の会食自粛が続く中、テイクアウトできる飲食店の一覧チラシを作成する団体の支援を行うなど、商業を下支えする役割を担っている。
事業の今後について	これまで、補助金の申請受付期間を年度内に複数設けていたが、対象事業の実施時期に柔軟に対応し、より多くの申請を受け付けることが出来るよう、令和 2 年度からは通年で申請を受け付けている。この補助金は、幅広いニーズに応えることができるものであり、新たな事業を生み出すためのきっかけにも成り得ることから、今後も実施していく。

## ③. 伊勢市駅前商店街活性化事業【再掲】（伊勢市駅前商店街振興組合） 【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「空き地・空きビル活用調査事業」の結果を受け、商店街が目指すべき長期ビジョンを定めるためにトータルプランを作成し、それに位置づけている事業を実施していく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	空き店舗誘致など積極的に行っており、さらには情報発信にも力を入れていることから、新型コロナウイルス感染症の影響のない事業者の出店があるなど、空き店舗率の改善に大きく寄与していると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	昨年度作成した商店街ホームページへのPR動画の掲載や、商店街マップの増版など、情報発信に重点を置き事業に取り組んでおり、また、商店街の清掃活動や道路デザインにおける勉強会やワークショップ、空き店舗誘致などソフト事業を中心に活動を行ったことで、歩行者の増加及び空き店舗の減少につながっている。そのほか、冬季には伊勢市と共同でイルミネーションによるライトアップ、また、朔日バル実行委員会による「朔日バル」など、民間団体のイベントの後援も積極的に行っており、民間団体と支援体制を組むことで、夜のにぎわいを創出している。
事業の今後について	「これわ伊勢モール」の改修工事に合わせ、通りの名前もリニューアルされる。新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、組合員との連携を強め、商店街活性化の事業を計画・実施していく。

④. しんみち未来創造事業【再掲】（伊勢銀座新道商店街振興組合）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	空き地や空き店舗が目立つようになってきた新道商店街の状況を調査するとともに、商店街の将来像を定めたビジョンを検討し、ビジョンに基づいた事業を実施していく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	賑わいを創出するための取り組みや、商店街での創業を促すための事業を実施したが、店舗・住居一体型の建物も多く、空き店舗であっても貸出や売却する家主が増えないことも原因となり、空き店舗率の改善にはなかなか繋がらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	「伊勢しんみち商店街未来ビジョン 2027」に基づき、学童保育の子ども達と連携した季節イベントや見学会を実施するほか、全国の高校生が主体となる産学官連携事業を会場として受け入れた。 「夜祭」や「はしご酒」などのイベントにより、夜の賑わいを創出し、また、商店街への創業を促すため、組合運営のフードラボ事業を実施することで、新規出店もあり空き店舗率は改善されたが、歩行者の増加は図れなかった。



	<p>なお、新型コロナウイルス感染症の影響がでた以降は、商店街独自のプレミアム商品券事業、イルミネーションプロムナード事業等、屋外で実施できる事業にも取り組んでいる。</p>
事業の今後について	<p>ビジョンに沿った事業を着実に進め、民間によるイベントの支援、近隣の学校や商店街内の学童保育所等との連携事業を継続的に実施していく。</p> <p>次年度、ビジョンにも位置付けた下水道工事が開始予定のため、行政と協力しながら円滑に事業を推進し、新規出店を促進させるとともに、合わせて道路整備を計画しており、人が集い、憩える空間を確保しにぎわいを創出していく。</p>

**⑤. 伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）**

事業実施期間	平成 28 年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により伊勢市駅前地区の土地の高度利用を目的に複合施設を整備し、商業施設、立体駐車場、共同住宅、福祉施設などの都市機能の集約を図る。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）</p> <p>（B 地区：平成 29 年度～令和 2 年度）</p> <p>（C 地区：令和 2 年度～令和 5 年度）</p> <p>[認定基本計画：平成 28 年度～令和 2 年度]</p>
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>目標値 ー</p> <p>全体目標未達成</p>
達成した（出来なかった）理由	施設整備により地域全体の魅力が向上し、周辺商店街の空き店舗率の改善に大きく寄与したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>B 地区について、令和元年 6 月に工事着工し令和 3 年 1 月に施設完成。</p> <p>C 地区について、再開発準備組合理事会を月 1 回実施し、事業の推進を図っている。令和 2 年度は施設の基本設計および現況の調査を行った。</p>
事業の今後について	再開発で整備される施設と商店街が連携した取組を実施し、にぎわいの創出につなげていく。また、C 地区についても、2 期計画期間内の完成に向け推進する。

**⑥. 優良建築物等整備事業【再掲】（民間事業者）**

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	伊勢市駅の南側において、優良建築物等整備事業により宿泊施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）</p> <p>（平成 28 年度）</p>
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>目標値 ー</p> <p>全体目標未達成</p>

達成した（出来なかった）理由	宿泊施設は予定通り完成し、高い宿泊率を維持していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、厳しい状況にある。しかし、近隣商店街に新規出店がみられるなど、空き店舗率の改善に寄与しているとは考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	平成28年の開業から4年余り経過したが、新型コロナウイルス感染症の影響より宿泊率が大きく減少した。一方で、近隣商店街の新規店舗が増加したことから、周辺のにぎわいの創出に寄与している。
事業の今後について	平成28年11月に三交イン伊勢市駅前がオープンを迎え事業は完了した。平成29年度から、伊勢市駅前商店街振興組合の理事として、組合活動に参画。令和2年度も理事として参画中。引き続き商店街の魅力向上のため、商店街との連携、活動の支援を行う。

**⑦. 繋ぐ高柳希望の風事業【再掲】（伊勢高柳商店街振興組合）【平成30年度追加】**

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【実施中】
事業概要	高柳商店街の増加傾向にある空き店舗や火災現場跡地の利活用等を検討した新ビジョンを策定し、それに基づいた事業を実施していく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 ー 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業内容を再検討するなど、事業計画の変更を余儀なくされ、空き店舗率の改善につながる事業実施までには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	火災現場跡地と複数ある空き店舗を利活用し、並行して多種多様なイベントを継続的に実施し、商店街に賑わいを生み出したものの、空き店舗率の改善にはつなげることができなかった。また、昨年作成したビジョンについては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した事業内容の検討をすべく、本年度、引き続き中小機構の支援を受け、火災現場跡地利用について再考を始めている。
事業の今後について	火災現場跡地の利活用を中心としたビジョンに基づき、事業を進めていく。ビジョンに基づく商店街周辺のエリアマネジメントを行う組織（運営会社）の設立は、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ進めていき、高柳商店街との連携を図っていく。

**⑧. 商店街等振興対策事業（伊勢市）【令和元年度追加】**

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における商店街やこれに類する団体の発展及び活性化を図るため、商店街等の団体が地域と一体となって消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助やイベン

	ト等の情報発信の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（伊勢市中心市街地活性化区域地区））（国土交通省） （令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<b>目標値 店舗数維持</b> <b>全体目標未達成</b>
達成した（出来なかった）理由	商業まちづくり補助金においては、主に商店街等の団体が実施するイベントへの支援を行ってきた。平成30年度からは、新規事業だけではなく継続事業も対象とすることにより、支援の幅が広がった。また、イベント等のPRにおいては、新聞等への折込チラシや雑誌への寄稿を行い、多方面への情報発信を行った。これら取り組みにより、空き店舗率の改善に繋がったと考えられるが、目標達成までには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	これまで、商店街等が主催するイベント等の支援を行い、毎年利用があったものの、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、商店街等においては、イベント等の自粛を余儀なくされている。このような状況の中、商業まちづくり補助金において、商店街等が行う新型コロナウイルス感染症拡大防止事業等への支援を行ったことにより、パーティーや消毒液等の導入が進み、安全安心な環境整備に寄与している。
事業の今後について	引き続き、にぎわい創出のため各商店街等の事業を支援するとともに、各種媒体を活用した広報活動を行う。

### ●今後の対策

商店街によっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業内容等の再検討を行っているところもあり、引き続き、各商店街が主体となった取組の実施を支援していく。

また、地域おこし協力隊については、令和3年度で募集をかけ、伊勢まちづくり株式会社に配置予定であり、隊員が中心市街地で活動することで、更なる地域の魅力を引き出し、これまでにない新たな視点による事業を実施していく。

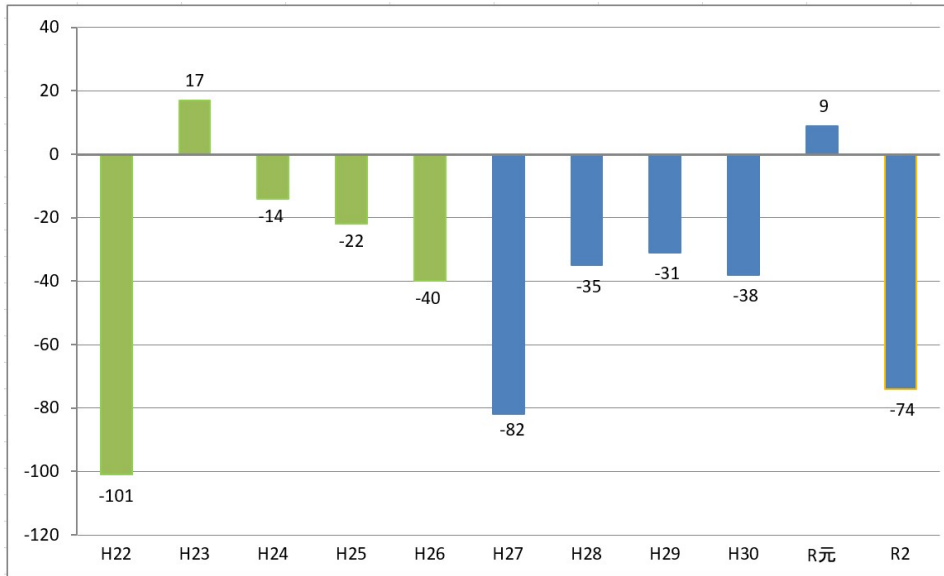
第2期計画では、目標指標を区域内の5商店街の新規出店数とし、また参考指標として区域内全体の新規出店数も検証資料として活用する予定である。空家の活用も視野に入れながら、区域内全体での創業出店者数を増やし、全体としてのエリア価値を高めていく。

さらに、新型コロナウイルス感染症により消費スタイルが多様化したことで商店街の担う役割や在り方も変化しているため、伊勢市、伊勢まちづくり株式会社の支援制度を中心に、商店街組織自らが事業の実施を積極的に行えるよう支援していく。

(3) 「人口の社会増減」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P76～P78 参照

●調査結果と分析



年度	(人)
H22～ H26	-160 (基準値)
H27	-82
H28	-35
H29	-31
H30	-38
R元	9
R2	-74 (最新値) -169 (累積)
H28～ R2	±0 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和2年4月～令和3年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内

居住人口の増加に向けた取組のうち、伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業の事業完了が間に合わなかったため、整備予定の賃貸住宅への入居も遅れており、居住人口の増加へつなげることができなかった。

さらに、中心市街地内の空家については、非耐震の木造空家除却に対する補助金利用は急増し、地域の安全性は改善されてきているが、空家の有効的な活用を促進する制度の活用がなかなか進まず、社会増減はマイナスとなった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業【再掲】(民間事業者)

事業実施期間	平成28年度～令和7年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により伊勢市駅前地区の土地の高度利用を目的に複合施設を整備し、商業施設、立体駐車場、共同住宅、社会福祉施設などの都市機能の集約を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省) (B地区：平成29年度～令和2年度) (C地区：令和2年度～令和5年度) [認定基本計画：平成28年度～令和2年度]
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +101人 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	共同住宅が入るB地区の事業の完了が遅れているため、人口の社会増につなげることができなかった。

計画終了後の状況及び事業効果	B地区について、令和元年6月に工事着工し令和3年1月に施設完成。 C地区について、再開発準備組合理事会を月1回実施し、事業の推進を図っている。令和2年度は施設の基本設計および現況の調査を行った。
事業の今後について	再開発で整備される施設と商店街が連携した取組を実施し、にぎわいの創出につなげていく。また、C地区についても、2期計画期間内の完成に向け推進する。

## ②. JT 用地活用事業【再掲】（民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～平成29年度【済】
事業概要	大型の複合施設(特定施設生活介護、サービス付高齢者住宅、訪問介護、デイサービス、在宅療養支援診療所、ケアプランセンター)の整備及び運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	サービス付高齢者向け住宅整備事業(国土交通省)(平成28年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +18人 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	施設は予定通り完成し、高い入居率を維持していることから人口の微増、関係人口の社会増に貢献したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	平成29年に開業して以降、平成29年12月にはサービス付高齢者住宅が、平成30年6月には、特定施設が満室となり、全館満室となった。入居者の9割が伊勢市内、1割が周辺市町からの入居者であるが、「住所地特例」を利用しての入居がほとんどのため、住民票の変更を行う入居者は1桁程度である。165人の受入数だが、現在もほぼ満室を維持している。
事業の今後について	平成29年5月に開業し事業は完了した。上記の通り、満室の状態を維持すべく、入居者に感動して頂けるサービスを継続していく。

## ③. 空家等の改善整備事業（伊勢市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【実施中】
事業概要	空家等の適正管理や空家関連補助制度の普及啓発に努めることで空家の利活用を図るほか、木造住宅の耐震診断、耐震改修、耐震性のないものの除却を進めるとともに、特定空家や不良住宅など老朽化した危険な空家の除却を進める。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金(社会資本総合整備計画(地域住宅支援))(国土交通省)(平成28年度～令和2年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 — 全体目標未達成

達成した（出来なかった）理由	除却補助をはじめ、管理不全な空家の解消を実施することによる地域の居住安全性確保を通じて、人口流出に一定の歯止めをかけることはできたと考えるが、流出入のバランスをとるまでには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	管理不全な空家の所有者等に対し個別指導を実施することで改善を促し、周辺の住環境の確保を図ることができた。また、耐震性のない木造住宅の除却補助(空家分:416件)や、周辺に悪影響を及ぼす不良空家の除却補助(4件)が進んだことで、地域の居住安全性を高めるとともに、土地の利活用促進につなげることができた。
事業の今後について	木造住宅の居住安全性の確保または除却を図る「木造住宅耐震補強等事業」と、空家の適正管理を促し危険な空家の除却を進めるなど計画的な空家対策を推進する「空家総合事業」の2事業に分割し、ターゲットを明確化する。 木造住宅耐震補強等事業については、引き続き広報周知に努めることで利用の拡大を図る。また、空家総合事業については、計画的・効果的な事業展開を図るべく、第2期伊勢市空家等対策計画の策定に着手する。

#### ④. 伊勢市駅北口広場等整備事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅北口における広場等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +25人 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	全体事業費が膨大であり、また既設駐輪場の復元先である鉄道事業者との協議に時間を要したことから、事業が完了できず、目標達成に寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	今後は、広場整備に伴う既設駐輪場の復元計画について、県や鉄道会社と事業推進に向け、引き続き協議を行っていく。
事業の今後について	全体事業費が莫大であることから、令和2年度までに完成させることは難しいため、計画見直しや、現状を活かした暫定的な対策も関係機関と協議していく。

#### ⑤. 商店街空き店舗対策事業【再掲】（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街において、空き店舗活用モデル事業やテナント確保支援事業など、空き店舗を活用して出店しようとする事業者に対して改装費や家賃の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成28年度～令和2年度）

事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +19人 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、7 商店街、延べ 33 件の支援を行い、歩いて暮らせる居住地に隣接する、暮らしを支える便利で快適な商店街づくりを行ったが、最終的な人口の増加には繋がらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	伊勢市駅周辺の商店街では新たに魅力ある店舗が出店する一方で、比較的遠くに位置する商店街では、申請件数が少なく、継続した支援が必要である。
事業の今後について	引き続き、商店街のニーズを把握し制度の拡充を図るとともに、利用促進に努める。

### ⑥. 商業魅力アップ支援事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備やにぎわいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 +19人 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、中心市街地において 12 団体、延べ 17 件の支援を行い、商業環境の整備やにぎわいの創出に寄与した。 また、近年、伊勢市駅周辺に位置する商店街では、新規出店舗が増えてきたことにより組織の情報発信に関する需要が高まっていた。このような状況の中、伊勢市商業魅力アップ支援事業補助金を活用し、マップ、ホームページ及びプロモーションビデオを作成することで商店街の魅力が多方面に発信されたが、最終的な人口の増加には繋がれなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	コロナ禍においても、出控えや企業の会食自粛が続く中、テイクアウトできる飲食店の一覧チラシを作成する団体の支援を行うなど、商業を下支えする役割を担っている。
事業の今後について	これまで、補助金の申請受付期間を年度内に複数設けていたが、対象事業の実施時期に柔軟に対応し、より多くの申請を受け付けることが出来るよう、令和 2 年度からは通年で申請を受け付けている。この補助金は、幅広いニーズに応えることができるものであり、新たな事業を生み出すためのきっかけにも成り得ることから、今後も実施していく。

### ⑦. 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	市内建設業者等による住宅や店舗のリフォーム・増改築及び店舗の新築を行う場合に、その工事費用の一部を補助する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<b>目標値 社会人口維持 全体目標未達成</b>
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における令和 2 年度の補助件数は、平成 28 年度に比べ約 5 倍に増加しており、中心市街地の魅力向上等による店舗及び住宅の利活用に対する需要の高まりがみられ、人口の増加に一定程度は寄与したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地においては、店舗、住宅ともに補助件数が右肩上がりとなっており、リフォーム等を行った物件が増加している。
事業の今後について	補助金利用者からのアンケート結果を踏まえ、制度の見直しを含め事業を進めていく。

**⑧. 空家対策事業（伊勢市）【令和元年度追加】**

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	空家バンク制度を運営し空家の利活用を図るとともに、空家バンク登録済みの空家を移住者が利用する場合の家賃補助や改修補助を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（伊勢市中心市街地活性化区域地区））（国土交通省）（令和元年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<b>目標値 ー 全体目標未達成</b>
達成した（出来なかった）理由	空家バンク制度の認知度がまだまだ低く、特に中心市街地活性化区域内の物件登録が想定以上に進まなかったことで、制度の利活用を進めることができず、全体目標の達成に寄与することができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	空家バンク制度について、利用登録は一定程度進展したものの、中心市街地活性化区域内の空家物件の登録は伸び悩んでいる。その結果、空家バンクを利用した移住者向けの空家改修補助の活用実績は 0 件となったほか、家賃補助についても、中心市街地活性化区域内の実績は 0 件となった。
事業の今後について	中心市街地活性化区域内において空家対策に取り組むまちづくり団体との連携を深め、空家バンク制度の広報周知に協力を依頼することで、中心市街地活性化区域内の空家物件登録が進むよう取組みを進めている。 また、空家バンクを利用した移住者向けの空家改修補助について、中心市街地活性化区域内の空家物件を利用する場合には補助率・補助上限を引き上げることで活用の促進を図ることを予定している。



## ●今後の対策

幅広い世代のまちなか居住のニーズに対応するため、第2期基本計画では伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業により分譲住宅の整備を予定している。

また、空家事業により空家の適正管理の周知や実態調査等を実施するとともに、耐震診断の結果、耐久性がないと判定された木造住宅について、耐震補強の補助により空家の再利用を図るなど、計画的空家対策を推進していく。さらに、中心市街地活性化区域内において空家対策に取り組むまちづくり団体との連携を深め、区域内の空家物件登録が進むよう取組を進める。

なお、まちなか移住創業促進事業では、移住・起業希望者向けの移住セミナーへの積極的な参加や、伊勢市移住PR動画などによる情報発信に力を入れ、まちなか居住の促進を図っていく。